

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990700029		
法人名	社会福祉法人 正和会		
事業所名	グループホーム シャルルまきの		
所在地	奈良県五條市大沢町5番地25		
自己評価作成日	平成23年3月20日	評価結果市町村受理日	平成23年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関を出ると、四季を感じることのできる環境の中で、草花や野菜を作りフロアや食卓に彩りを添えている。日々の生活に於いては、入居者の自主性を尊重し、決められた日課は設けず、その時々のご自分のペースで生活できるよう支援している。また、常勤の看護師と介護職の連携により、持病の悪化予防、体調不良時の早期対応に努めている。介護福祉施設併設でもあり、重症化し共同生活が困難になった時には、その人に合った適切なサービスが提供できるように努めている。スタッフはスキルアップを図り、入職後より法人研修に参加し知識・技術の習得に取り組んでいる。緊急時や災害時の応援体制も整備し、入居者・スタッフ共に安心して過ごすことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街から少し離れた金剛山麓の自然豊かな田園地帯に隣接して、特別養護老人ホームを中心とした建物の1階部分に開設されたホームです。「特別でない普通の生活を大切に自分らしく暮らせる家」を理念として、一人ひとりの生活歴、性格、思いを十分把握し、本人が自分らしく過ごすためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は、本人の立場に立って追求されています。実際、ケアは大変きめ細かく、とりわけ、夫々の能力に応じた役割、楽しみごとの支援、日課を設けず自分のペースで過ごせる支援、アンケートの実施やサービス評価と運営推進会議を結びつける等サービスの質の向上への取り組み、高い防災意識等の他、ホームの内外は、新しく掃除が行き届き清潔感にあふれ、各所にバリアフリーが施され、居間には季節の生け花や飾り付けが飾られ、対面式のキッチン、各居室にトイレを設置する等、季節感、生活感や五感刺激及び利用者のプライバシーや動線に配慮した機能的な設えの建物等さまざまな工夫や配慮、研究が見られます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成23年4月6日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、朝のミーティング時やパソコンの待ち受け画面を活用し、スタッフ間で意識付けを行っている。その上で画一的なケアでなく一人ひとりのケアについて検討している。	普段の自分らしい暮らしを重視した理念を大切にされています。理念について、ミーティング等の職員間で話し合う機会を持ち、意識づけがなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、リサイクル活動への協力や陵墓の清掃等を実施。合同の夏祭りや地域の祭りに参加して地域の方と交流する機会を作っている	地域とつながりながら利用者が当たり前前の暮らしを続けるための基盤づくりの必要性を認識し、リサイクル活動や近隣の陵墓の清掃、地域の祭り等に参加する他、地域と合同で夏祭りを開催する等、地域の一員としての取り組みに伸展がみられます	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催で行われる介護者教室に出向き、意見交換や質問事項に専門性を活かしたアドバイスを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催。活動報告や取り組みの経過報告を行い、アドバイスを頂いている。また参加メンバーからは地域の情報を頂き、運営に活かしている。	会議は、家族、地域住民の代表、日赤、社会福祉協議会、地域包括支援センター、市職員等の参加の下、定期的開催され、活動状況や利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組み等を報告し、話し合いサービスの向上に活かされています	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等において市町村担当者との連絡を密に行い、事業所の実情やケアサービスの状況を報告している。また必要時は電話や出向き、相談アドバイスをもらっている。	市主催の会議や入居申し込み等の機会に市担当者へ、ホームの状況や利用者のニーズの具体的な内容を伝え、連携を密にされています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修に参加、身体拘束がもたらす身体的・精神的・社会的弊害について学ぶ。本年は目標達成計画の中で身体拘束廃止の取り組みを行った。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束の内容とその弊害について勉強会を実施する等、徹底理解を図り身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加すると共に、フロア会議、朝礼等で日頃の行動や言葉遣いに注意し、意見を交換し改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修にて学ぶ機会を持ち必要性が生じた場合、対応できるようにしている。玄関にパンフレットを置き、家族、面会者等へも周知を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の方針や取り組みについて、施設見学から申込みに至る経過の中で、信頼していただけるように説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置。意見を反映するためにアンケートを実施し改善案を含め家族会で報告。また、入居者・家族との会話の中から要望を直接聞いたり表情等から声にならない声に気づくように努めている。	顧客満足度を高めサービスの質の向上を図るため、アンケートの実施や意見箱を設置する他、家族会の開催、毎月の報告時や面会時、電話等の機会を捉え、気軽に意見や要望を出してもらえそうな雰囲気づくりに留意されています	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア会議を実施し意見交換を行っている。また、日々の気づきについては朝礼、終礼時、緊急会議の開催等で話し合い必要な場合は申し送りノートを活用し情報を共有化している。	毎月のフロア会議やミーティング等で、職員の意見を聞き、運営に反映するよう努められています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、個々の努力や実績を評価。面接を行うことにより、本人の希望、悩み等を聞く機会を設け、向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じ法人研修を計画、実施している。入職時の新人研修や実際にフロアに配属になった後、中堅スタッフが新人スタッフに対し「フレンドシップ」制を活用し、育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回、市内のグループホームが定期的に集まり、事例検討や情報交換を行っている。お互いに良い所を見習い、悩みや不安を共有することでそれぞれの現場で活かすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に来所を依頼し、フロアや居室等の生活環境の見学や、本人の心身の状態や思い(不安・要望)を掴むようにしている。一度訪問することによりスタッフとも顔馴染みになり、早期の関係性を築けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に本人と家族の今までの関係や現在困っていること、要望等話し合う機会を持っている。入居後もその都度相談しながら進めていくことを伝え、安心して頂けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を最終目標にするのではなく、本人と家族が今必要としているサービスの紹介やアドバイスを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側という意識はもたず、共に支えあえる関係作りに努めている。人生の先輩として教えて頂くことが多く、暮らしの中で何気ない言葉やしぐさを大切に和やかな生活ができるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホームたよりに本人の日頃の様子をに載せ、行事等に参加された時の写真を同封し近況報告をしている。家族の面会や電話を通じ、本人の日々の暮らしの様子や気づきの情報共有に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や神社への初詣を行っている。また、友人の面会があったり、家族の協力を得て外食、喫茶店へ出かけている。	盲から利用している美容院に通い続けている利用者や、外食、喫茶店へ出かける利用者がある等、一人ひとりの生活習慣を尊重した支援が行われています。地域に暮らす友人等が面会に来る等、継続的な交流ができるよう働きかけがなされています	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することなく過ごせるよう入居者同士の関係の把握、座席の配置などスタッフが気を配っている。また余暇の時間は共通の趣味の方に声をかけ、楽しい時間を過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了前には、話し合いの時間を持ち必要な場合にはアドバイスをを行っている。また退所後も相談に乗ることを伝え、退所先への面会を行うようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人の思いを引き出せるような声掛けをしている。また会話(つづやき)の中や表情から汲み取ったり、自ら会話が少ない方は家族から情報をもらい、本人の思いに添えるようにしている。	日々のかかわりの中で、把握に努め、言葉や表情などから真意を推し測ったりそれとなく確認するようにされています。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から情報を得たり、アセスメントを活用し本人本位に検討されています	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当していた居宅支援事業所への確認や、生活されていた自宅への訪問・住宅周囲の環境を把握する。また、面会時に家族から情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日のリズムや心身の状態を把握した上で、朝礼で前日までの様子を報告し確認。本人への働きかけは記録し終礼時に夜勤者へ様子を申し送ることにより最新の情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎に担当者会議を開催し、日々の記録を基に意見交換を行っている。また、家族の希望や本人の思いを聞き、反映できるようにしている。	本人や家族の意向を確認し、主治医等の関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、毎月カンファレンスを行う他、3ヵ月を目途に見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	介助項目を主とした介護計画を作成されていますが、今後更に、利用者の視点に立って地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成が望まれます
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の支援に関わる記録(介護計画を含む)はパソコンで管理している。スタッフは各自、出勤時に個別支援経過を確認し、介護計画に基づき実施・評価・見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、本人が希望される日常生活用品や嗜好品の購入、受診の送迎など柔軟に対応し、満足していただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の歯科医・鍼灸師や理髪店から訪問に来て頂いている。利用者も会話を楽しみにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿うように努めている。受診の付添いは基本家族であるが、都合で付き添えない場合や車椅子の方は、付き添ったり、送迎したりしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医とされています。受診や通院は、本人や家族の希望に応じて職員が同行し、普段の様子や変化を伝え情報提供する等支援されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と介護職との連携により、日常生活における健康管理は行っている。主治医との連絡を密にすることで、早期対応が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には家族と共に説明の場に同席し、治療方針や病状を聞くようにしている。入院中は面会や家族・病院スタッフとの情報交換を行い、スムーズに退院が出来るように繋げている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、趣旨説明を行い同意を得ると共に、身体状況に応じて本人、家族の思いを確認する。重度化した場合、再度双方の意思確認を行い医師とも連携をとっている。	重度化対応指針を作成されており、契約時に終末期の過ごし方について家族に意向を確認し、重度化した場合や終末期には家族、かかりつけ医とカンファレンスを重ね、方針を確認されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職員は消防署による一般救命講習に参加。法人・施設内では日々起こり得るリスクや事故に対して繰り返し指導を行う。また、緊急時マニュアルを設置し速やかに対応出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元自治会と防災協定を結び、協力体制を整えた。事業所内においては、朝のミーティング時に出火場所を想定してシミュレーションしている。法人での訓練も定期的に行い、食料品等の備蓄を行っている。	防災意識は高く、マニュアルを作成し、昼夜を想定した避難訓練等を定期的実施されています。地元自治会と防災協定を結び、協力体制を整備すると共に、災害に備え、食糧や飲料水を備蓄されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも人生の先輩であることを意識した言葉かけを行うようにこころがけている。本人の気持ちを大切に考えプライドを傷つけないさりげないケアに努めている。	人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時も、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自ら意思決定ができるような声かけの工夫をしている。また、意思決定が困難な方には、複数の選択肢を提案したり、答えやすい働きかけを行い自分で決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の体調や気分により、自分のペースで過ごしていただけるようにしている。希望があれば叶えられるように調整し、希望が言えない方にはサインを読み取り、出来るだけ個別対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時、女性の方は化粧水や乳液を持参されている方が多く、車椅子の方は鏡を見ながら行えるよう介助している。催し物がある時はお気に入りの服を選んで着ていかれる方もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の個々の力を活かし調理・盛り付け・後片付けをしている。畑で取れた野菜や大好物のお寿司を作るときはアドバイスをもらいながら一緒に作っている。	調理、準備、盛り付け、片付け等利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を把握し、摂取量が減っている場合は原因を調べ、形態や嗜好に合わせる。持病により食事内容に注意が必要な場合は主治医の指示を仰いでいる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し、個々の能力に応じ出来るだけ本人に実施していただくよう支援するが、最終はスタッフが口腔内の確認を行い清潔に保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立の意義を理解し、時間・量・睡眠等を把握し、一人ひとりに合った方法を検討している。意思表示できない方に関しては日々の排泄リズムやその時々の様子から察知し誘導している。	排泄をチェックし、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や便秘による影響を理解し食事や水分量を把握し、その都度食事形態や水分の好み、摂取方法の検討を個々にしている。また、便秘解消のため散歩等、体を動かすようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら入浴を行っている。家庭浴槽で困難な方は、特養の浴槽でゆったり入っていただいている。	入浴したい日、時間に合わせて入浴支援されています。身体機能の低下が見られても入浴を楽しめるようリフト等を設置する等工夫されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼間は散歩やカラオケなどで楽しみ、夜はゆっくり寝ていただく様に努めている。午睡を希望される方は、夜間不眠にならない様に時間調整を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬説明書(効能・副作用)をファイル(個人・緊急用)に綴じ、様子が変わった時に参考にできるようにしている。突発的な処方時は申し送りを徹底し様子観察の指示を出し状態把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴から、仕事・生活習慣・趣味など一人ひとりにあった楽しみ事や役割を發揮できる場面を作っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望を聞きながら近くへの散歩や季節毎の花見、ドライブなどの支援を行っている。また、家族の協力を得て喫茶店や外食ショッピングなどへ出かけている。	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として散歩等に出かける等、外出や戸外で過ごせるよう支援されています。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、喫茶店や買い物等へ出かけられるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理しているが、その時々々の希望に沿った支援を行なうようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により葉書の購入や投函を手伝っている。年賀状は、毎年ほとんどの方が書けている。また、電話を掛けたり取り次ぎを行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに植物や絵画、季節を感じていただく飾り付けと一緒に作成し飾っている。ユニット間は吹き抜けになっており、外の光りが差し込む空間となっている。	建物はバリアフリーで、床や壁面は落ち着いた色調にされており、リビングは適度に明るく掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式のキッチン等の他、季節の生け花や飾り付けもされる等、五感刺激や季節感にも配慮され居心地よく過せるよう工夫されています。	今後更なるサービスの向上を目指し、利用者の以前の過ごし方、馴染みのもの等を知り、それらの情報を活かしながら居心地良く過ごせる工夫や配慮を期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファを置き思い思いの場所でゆっくり過ごせるようなスペースを設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた箆笥やソファを設置し、馴染みの空間づくりをしている。また、思い出の家族写真や行事に参加した時のスナップ写真を飾りその人らしい居場所作り心がけている。	テレビや写真、タンス等思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。居室にはトイレを設置し利用者のプライバシーや動線にも配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力の為、転倒の危険性がある方は床に敷物を敷いたり、居室の箆笥やベッドの配置を検討し出来るだけ事故なく安全に生活できるようにしている。		